

9月9日

# 大分合同新聞

## 夕刊

創刊1886年(明治19年)  
**大分合同新聞社**  
 〒870-8605 大分市府内町3-9-15  
 代表 ☎097-536-2121  
 Eメール info@oita-press.co.jp  
 ©大分合同新聞社 2016  
 朝夕刊 完全連続紙

金土  
**ラスワン**  
 度、ベトナム翻弄  
 12月に大分公演



### 署員スマホを盗む

まさか、警察官が他人のスマホを盗むとは。別府署隠し撮り事件の騒動のさなかなのに。

### 自転公転

詰め掛は衆、地元で見かけたジックは1の優勝はも

た。シンガー・ソングライターの西村が、残る名曲「白い恋人たち」を8年に仏グルノーブルで行

## 常に感性を磨く訓練

## スケッチブックと筆記用具



切磋琢磨し、試行錯誤の末、完成される舞台の最新作「舞響〜Bukyo〜踊る〇太鼓」の一幕

の舞台が完成していく。ではTAOは?

TAOの制作は劇団のようになて自分たちでやっていく。そもそも和太鼓でシヨを創るという前代未聞のことに対して、プロの指導者などいないのだ。

そんなTAOの必需品はスケッチブックと筆記用具。これは設立当初から変わらず、常に気づいたことを書きためていくためだ。

また、例えば飛行機の中で雑誌を読んでいて面白いと思うものは切り抜いて貼ったり。日常から感性を磨く訓練をして、変えていく。

こうしてメンバーは切磋琢磨しなければならぬ。そしてそれがTAOの制作の基本になっているのだ。

僕の場合はペンも常に持ち歩く。筆の見せる表情に任せ、力強さや哀愁を表現することもある。またツ

アー先では必ず早朝から、長いときで2時間宿泊地を歩く。看板ひとつでも良い、その街の日常にあふれる面白いものを求め、そして思ったことを描いていく。

それが習慣となったとき、例えばきれいな色のナスを見て「あ! 紫の舞台を創ろう!」、創造世界が面白く感じるといふような広がっていく。楽曲「夢幻響」の「エア太鼓」と呼ばれる独特の振り付けは、久住で懸命に素振りをする研修生の姿を見てかっこいいと思ったのがきっかけだった。今年の舞台中「夢幻響VII」のキラキラした世界は、思いがけず沖繩のサウナで着想を得た。

これまで新しいエンターテインメント確立のために、時間とお金を惜しまず一流といわれる数々のシヨを世界各地で見つめた。まずは知ること。それから、それを必ず再現したり体現したりしていく。そこに新たな才能が宿るからだ...とは言ってもすぐにうまくいくわけではなく、幾度となく赤っ恥をかきながら、少しずつ上質のものが何かが分かってきた。



さらに今、ありがたいほどにたくさんアティストと出会うの場があり、身近に刺激を受ける機会が多くなった。TAO全員が切磋琢磨して上質の土台ができたとき、彼らとのコラボレーションがかなう気がする。

常に切磋琢磨の繰り返し。だからこそTAOの舞台は進化を止めないのだから。

(タオ・エンターテインメント社長 藤高郁夫)

## TAOが描く日本の夢

### NY公演を終えて

19

想像以上に成功裏に終わった、TAO初のプロロードウェイ公演。ここにとどり着くまで、そしてここから先に進むために、舞台制作が絶対の要になる。

例えば映画の場合は映画監督がいたり、舞台であれば脚本家、演出家、振付師。各分野のエキスパートがキャストに指導して一つ

想像以上に成功裏に終わった、TAO初のプロロードウェイ公演。ここにとどり着くまで、そしてここから先に進むために、舞台制作が絶対の要になる。

例えば映画の場合は映画監督がいたり、舞台であれば脚本家、演出家、振付師。各分野のエキスパートがキャストに指導して一つ

### J-ヒッツカウントダウン10

1 - Sha la la☆Summer Time